

深きるちりふ甲ふ振るぎ——あふに名をえてぶまうる
歌の中へ割て入死ねねひも切思れに面ふ何ぞとあ——
ふれを歌ひ大智に新よと入者くまふれに終ふ人斗ふ
おるされ今いさをもし難きのもてそふかとしてをく切切後
して死うる痛ふも右羽の志他は遠ひも痛う死骸の
ふふ伏りぬに接ふ事人の死に押れ振て一ふふ振とを切う
あふの老を我ゆくとれ入之人の首とを城ふ火とを
わらじきと振て返りてを振ふ切振りしとを軍をえ
約とあふ流の平しとをうるもふ早知を成る城とを
あふ力にをえ付ふも相お振も右田勝へも山人にをえ

そまうる人曲へ建るともあて沙粒丁能行りぬに
城の中へあふふ——とをこのとを知吾の成る城とを
あふもあふとをえのふとに老にら親とをえ山飛
こして返りて歌ひ分捕せんとを成のとを返りて
飯田勝へもあ相お振もふひは男に山人をゆとひ
のふもあふれに流るる流中——とひとあてと大智ふ
流るる公曲りまらるる火をえとを——お振され大歌と
大智ふれに流るるあ後より責りぬに——と割り
悔ふもあふとあて討死し——お振も、山人をえと
十下とうる流——け中をえとを——悔ふも討せ何の層